

2011年度一般会計予算案に対する反対討論(4月27日) 田口一登議員

「市民税減税」恒久化を前提とした市民サービス切り捨てるの予算。 大型事業をやめ、留保財源をいかして福祉・防災のまちづくりを

4月27日の3月議会最終日に2011年度予算の採決などが行われ、田口一登議員が市長の予算と自公民の予算修正に反対の立場で討論を行いました。減税日本は討論しませんでした。田口議員の討論を紹介します。

福祉・市民サービスの削減とセットだった「減税」

田口議員は「市民の命と暮らしを守る」予算が求められていると指摘し、「行財政改革」の名のもとに市民サービスの削減を進めた、前市政が進めてきた不要不急の大型事業を継続、さらに推進しようとしている、と2つの理由で市長の予算に反対しました。

マスコミも「減税否決で福祉充実」と報道

田口議員は、大企業・大金持ち優遇の市民税減税を恒久化することが前提で「構造改革」路線が継続された予算と指摘し、「減税」で意図的に税収不足をつくり出し、「行財政改革」の名のもとに市民サービスの削減を進める予算と厳しく批判。河村「減税」で昨年度は、私立高校等への授業料補助、学童保育への助成金などがばっさり削られ、市立城西病院の民間売却、公立保育園の民営化などが進められました。今年度は「減税」見送りで、中学卒業までの通院医療費無料化や待機児童解消のための保育所の整備などの予算が計上され、「減税否決で福祉充実」、「減税せず福祉拡充」、「減税中止で政策原資 子育て、景気対策に」と新聞各紙が報道しました。

田口議員は、「減税したら福祉が削られ、減税やめ

たら福祉が伸びた。これが、河村減税の正体だ」とずばり指摘。

しかし、「減税」恒久化を前提にしたために、保育料の値上げ、福祉施設の民営化、税務事務の集約化と職員削減をすすめ、さらに新たな行政評価による「事業仕分け」で「金持ち減税」の財源づくりを計画し、福祉と市民サービスをいっそう削減しようとしています。



不要不急の大型事業を継続、推進する予算 天守閣の木造復元は、きっぱりと断念を

田口議員は、不要不急の大型事業について、これまで以上に推進しようとする市政を厳しく批判しました。

河村市長は、市長選挙で名古屋城天守閣の木造復元を公約、予算の提案説明でも、「天守閣の木造復元など・・・課題調査を実施する」と明言。ところが、委員会では、「天守閣の木造復元の調査は入っていません」と当局が答弁。田口議員は「市長の説明と当局の説明が食い違う。こんないいかげんな予算の提案はない。震災対策が急務の時、天守閣の木造復元はきっぱり断念すべきだ」と厳しく指摘しました。

自民・公明・民主3党の修正案 保育料値上げの中止は大賛成だが、ムダを継続

自民・公明・民主3党の修正案について、田口議員は「保育料値上げの中止は大賛成」ですが、「修正案には、福祉の民間化や不要不急の大型事業にはメスが入らず、原案の根本問題をただすものとはなっていない」と指摘。また、地域委員会制度の創設準備の予算削除については、「住民自治のあり方についての市民的な議論を深める場がなくなってしまう」ことは容認できないと表明しました。

大型事業の中止・見直し、62億円の留保資金の活用で福祉・暮らしを守る予算に

田口議員は、大型事業のを中止・見直しで財源を確保し、62億円の留保資金も活用して、福祉を充実させ、命と暮らしを守る予算に」と求めました。



減税中止で福祉充実を報道する各紙(3月1日)